

媒体名: 朝日新聞

日付: 2007年3月1日



ブラジルへ日本人移民が渡って100周年を迎える来年、同国サンパウロ市で「千人太鼓」が披露される。礼節に重きを置き、音だけでなく、間を大切にす

千人の太鼓 海越え響け

移民100周年迎えるブラジル

「千人太鼓」が披露されるのは、08年6月にサンパウロ市で開催される「ブラジル移民100周年記念式典」。

和太鼓の親ほく団体「日本太鼓連盟」（港区）の協力で、3年前に発足した「ブラジル太鼓協会」が企画し、現在約500人の奏者を確保したという。

指導する「自分のルーツ触れて」

「太鼓は日系人にアイデンティティを与え、プライドを持って各国で生きていく支えになる。太鼓を通じて日系人が自分のルーツに触れるきっかけになれば」と影山さん。

和太鼓の指導のためブラジル訪問する影山伊作さん（練馬区南田中5丁目）

る曲「絆」を指導する。その1人、日系米国人で杉並区在住の影山伊作さん（25）は、04年と昨年も太鼓集団「天邪鬼」の団員として、ブラジルを訪れ、日系人らを指導してきた。

米国サンフランシスコ市生まれ。6歳の時、ギターを奏者だった日系3世の父親のバンド仲間から和太鼓を習った。

中学時代にテトロイト市に転居。アジア系住民は少なく、米国籍を持っているのにアメリカ人とみなされないことに驚いた。

一方で、日本人と名乗っても、当時は野球のイチロー選手のような米国中に影響力を持つ日本人がいなかった。「自分は何人なの」という問いに答えにくかったのが和太鼓だったという。